令和７年度保育学科，服飾美術学科
試　験　問　題

国　語

（試験時間60分）

受験番号	

受験上の注意

1　机の上には，「国語」の「問題冊子」１部と「解答用紙」１枚とが配付してあります。

「始め」の指示があるまでは，表紙の「受験上の注意」を読むだけで，「問題冊子」や「解答用紙」に手を触れてはいけません。

2　「受験票」を机の上に置き，筆記用具を準備しなさい。

「下敷き」の使用は認めません。

3　これは「国語」の試験で，試験時間は「60分」です。

4　「始め」の指示があったら，「問題冊子」と「解答用紙」に「受験番号」を記入してから，解答にかかりなさい。

解答はすべて「解答用紙」の所定の欄に記入しなさい。

5　印刷の不鮮明な箇所があったら，手を挙げて指示を受けなさい。

6　「やめ」の指示があったら，直ちに鉛筆などを置き，「受験番号」の記入漏れがないかどうかを確かめなさい。

7　試験開始後30分までは退室できません。

8　試験中の用便や試験開始30分以後の退室などには，手を挙げて指示を受けなさい。

問題一　次の【甲】・【乙】は、どちらも染織家の志村ふくみの文章です。これを読んで、後の問いに答えなさい。

【甲】

平安王朝期、人々は四季の織り成すわずかな変化をみのがさず、襲の色目という華麗な色彩の世界を生み出しました。

襲の色目とは、衣の表裏、または衣を重ねた際の色の配合を指します。色の濃淡や取り合わせによって、裾や袖のほんのかすかなずれに自然の移ろいを匂わせ、さらには人々の心映え、物語の推移までも描き出しました。源氏物語は、その洗練された色彩感覚が文芸に結晶した極致であり、私はその世界に深くわけ入り、六十年前からことあるごとに作品に織ってまいりました。

古代日本の色彩に造詣(ア)が深い、国文学者の伊原昭先生の書物によって多くを導かれてきた私ですが、九十歳を超え、なおのことと源氏物語に引き寄せられるようになりました。それは、伊原先生が昔から究極の美として説いてきた「無彩色の世界」が、年を重ねてより一層、我が身に迫ってくるようになったからです。

(1)絢爛たる色の物語は、終わりに近づくにつれ、徐々に色彩を失っていきます。病や出家、愛する人との別離や死を経て、(イ)ショウチョウ的に表れるのは墨染の鈍色です。そして光源氏亡きあとの［A］の物語では、色彩は一切なく白と黒の、色なき色の世界が繰り広げられていきます。

源氏物語が最後にたどりついた無彩色の世界を思う時、脳裏をよぎるのは般若心経の有名な一説です。

色即是空、空即是色。

色は空で、空はまた色。色がなければ空は存在せず、空がなければ色は存在しません。両者は［B］一体なのです。めくる

めく豊かな色彩の世界があったからこそ、はかない色、色なき色という究極の美の世界に到達するのです。

白のままでは生きられない——。

まっ白な糸、布にほんの少しでも人の手が触れれば、それらは汚れてしまいます。(ウ)無垢のものをそのまま手の内にとどめることはできません。物を創るということは汚すことであり、人間はそうしなければ生きてはゆけないと常々語ってきました。

今の私が強く魅かれるのは、かつて二、三反織ったことのある天蚕(注1)の仕事です。野生の山繭が吐き出す淡い緑の糸は煙のようにふるえ、まぶしいほどの輝きを放ちます。その光の糸で、人間が着る衣ではなく、天への捧げものをつくりたい。汚れなきものでありたいのです。天蚕の仕事は、これまで数多の植物から色を染め、織り成してきた私が最後に夢見る色なき色の世界なのです。

志村ふくみ「夢もまた青し　志村の色と言葉」より

【乙】

我々は依然、物を汚すか、生み出すかの瀬戸際で苦しんでいる。日々織にむかう私にとって、糸とのつき合いは切っても切りはなせない。糸は糸そのものである時が最も美しい。繭からひき出された汚れをしらない糸、藁灰汁で練り、水洗し、干し上がった糸の純白な弾力ある輝き、きゅっと手に握った時の張りのある手ごたえは、「さぁ、何を織ろう」という身内から湧く悦びに呼応する。しかし次の瞬間、そこに「織ると死ぬ」という言葉が待っている。経と緯という厳しい制約がはじまる。糸は美しい色を得るために炊かれ、絞られ、撓められて、火と水の試練をうける。

経糸が空間に張られると、赤や緑、黄の縞、絣、暈しなどが宙に浮き、たゆたって最も美しい状態になる。そこから再び、織る

と死ぬという規制がはじまる。経糸が自在な緯糸に侵入されて固定化する。〝織る〟ということは、経という必然と緯という偶然が交差して布が生まれることである。それは我々の日常とよく似ている。今日という日をいかに生きるか、今日という日は否応なくあたえられた［C］であり、その一日に何が起こるか、我々の自由であり、［D］でもある。織物は凝縮された人生である。私とてそんなことを考えながら織物をしているわけではない。むしろそんなことをすっかり忘れて目の前のことに心をウバ(注1)われて夢中で織っている。しかしふと夜ねる前など我にかえるとそんな想い(2)が湧くのである。

今、私は天蚕(てんさん)の、細い煙のような糸で経、緯を織っている。

そんな糸で織れるか、自他共に不安であったが、何しろ一度はやってみたい、天蚕の輝く無垢な糸そのままで。

果たして、糸はもつれ、切れ、正体もないほどにももけて（けばだって）しまう。

それをためつ、すがめつ(3)、いたわりつつ、だましだまし織っている。一日に三十センチ織れればいい方である。日によって十センチも織れない。糸があまりに細いため、織っても織ってもすすまない。切れる。ももけて綜絖(注2そうこう)の口があかない。私は三重苦の織物だと思った。織れた布はうす緑の得もいわれない透けた羽のようである。一メートルも織りすすんだ時、さすがに根(こん)がつきてもう止めよう、と思った。これ以上もう織れない、という思いとまったく同時に、もっと織りたい、この布で着物を織ろうと突然思い立った。自分でもふしぎだった。何がそういう思い(4)にさせたのか、糸のせいではないか、私はそう思った。

天蚕の糸はいかに美しくとも、布になり、人の目にふれ、手にふれ体にまとってもらわなくてはその使命を果たすことはできない。

それにはどうしても人の手が、思いがいる、創意がいる。そんな風に天蚕の糸が私に呼びかけたように思った。四十年近く仕事をしてきて、常に私は色のこと、デザインのことを思わない日はなかった。ところが天蚕に出会って以来、色もデザインも全くな

い世界、素材そのものの世界に魅入られてしまった。人間の狭小（せま）い考えなど問題にもならないほど天蚕の糸はそのままで多くを語っている。語る以前の、無言の力である。しかし、人間がそれをあつかうことはシナン[注2]である。何より私に重大なことは、織り上がったものが天蚕を汚してはいないか、ということである。

手織の、何といって変哲もないただの織物であればあるほど、その表現は純乎（じゅんこ）とした美を備えているはずであるのに、今私の織っている布は糸が切れ、ももけて無残な姿をしている。こんな傷だらけのものにしてしまって天蚕に申しわけないのである。それでも私は止められない。切れて切れて、ああもう駄目だ、と思った翌朝、なぜか手が糸にふれた瞬間、「魔法のようにやさしい手」があるような気がした。そのやさしい手でこの糸にふれれば切れないのではないか、魔法のように切れないのではないか、とそう思った。事実、ふしぎというほかはない。その日糸はほとんど切れなかったのだ。いつもの倍くらい織れたのだ。魔法の手はこの世にきっとあるにちがいない。たとえ一日でもそのやさしい手が宿ってくれたなら、糸を汚したり、物を汚すことはなく、その本来の美しさの方向へむかうことができるだろう。

志村ふくみ「自選随筆集　野の果て」より

注1　天蚕　ヤママユの別名。緑色を帯び、光沢がある絹糸がとれる。

注2　綜絖　織機の部品の一つ。緯（よこ）糸を通すために経（たて）糸を上下に開く道具。

問一　傍線部㋐㋒の漢字の読みを平仮名で書きなさい。また、傍線部㋑㋓㋔のカタカナを漢字に改めなさい。

問二　空欄 A には源氏物語五十四帖のうち最後の十帖の通称が当てはまる。漢字四字で答えなさい。

問三　空欄 B ～ D に入る最も適当な言葉を、それぞれ本文中より漢字二字で抜き出し答えなさい。

問四　傍線部(1)「絢爛たる色の物語」と同義の言葉が二か所ある。【甲】の文中よりそれぞれ八字で抜き出し答えなさい。（順不同）

問五　傍線部(2)「そんな想い」とはどういう想いですか。本文中より十五字以内で抜き出し答えなさい。なお、句読点や符号も文字数に含むものとします。

問六　傍線部(3)「ためつ、すがめつ」の意味として最も適当なものを、次の①～⑤から一つ選んで答えなさい。

① あれこれ試してたしかめて
② いろいろな方からよく見て
③ 良し悪しをきちんと選んで
④ 挫けたり立ち直ったりして
⑤ よいものを厳選して集めて

問七　傍線部(4)「そういう思い」とは相反する二つの思いと考えられます。どういう思いか、三十字以内で答えなさい。なお、句読点や符号も文字数に含むものとします。

問八　次に示すのは【甲】【乙】を読んだ後の、話し合いの様子です。これを読んで、後の問いi・iiに答えなさい。

生徒A　【甲】からも【乙】からも、染織家としての厳しい覚悟を持った筆者がたどり着いた境地が伝わってくるよ。

生徒B　そうだね。【甲】では［　X　(四十字以内)　］という言葉から伝わる創作の覚悟に感動したよ。

生徒C　【乙】で厳しい制約として［　Y　(五字)　］という言葉を繰り返しているのも同じ覚悟なんだろうね。

生徒A　天蚕の仕事を通して、【甲】では「色なき色の世界」を夢見ると言い、【乙】では「本来の美しさの方向」へ向かいたいと言う、それは結局、［　Z　(四字)　］の世界に到達したいという芸術家の願いなんだね。

i　空欄［　X　］には当てはまる言葉を四十字以内で抜き出し最初の四字で答えなさい。なお、句読点や符号も文字数に含むものとします。

ii　空欄［　Y・Z　］に当てはまる言葉を、Yは五字、Zは四字で本文中より抜き出し答えなさい。

問題二　次の文章は『竹取物語』で、かぐや姫のうわさを聞いて多くの男が求婚にやってくる場面です。これを読んで、後の問いに答えなさい。

文を書きてやれども、返事もせず。[注1]わび歌など書きておこすれども、かひなしと思へど、Ⓐ霜月・Ⓑ師走の[注2]降りこほり、Ⓒ水無月の[注3]照りはたたくにも、障らず来たり。

この人々、ある時は、竹取をよび出て、「(1)娘を、吾に賜べ」とふし拝み、手をすりのたまへど、「をのが生さぬ(a)子なれば、(2)心にも従はずなん（あり）」と言ひて、月日過ぐす。かかれば、この人々、家にかへりて、物を思ひ、祈りをし、[注4]願を立つ。思ひ、やむべくもあらず。「さりとも、つゐにおとこ婚はせざらむやは」と思ひて、(3)頼みをかけたり。あながちに、心ざしを見えありく。

これを見つけて、[注5]翁、かぐや姫に言ふやう、「[注6]我子の仏、[注7]変化の人と申しながら、ここら大きさまでやしなひたてまつる(4)心ざし、Ⓓをろかならず。翁の申さん事は聞き給ひてむや」と言へば、かぐや姫、「なに事をか、のたまはん事は、うけたまはらざらむ。変化の物にて侍りけん身とも知らず、(5)親とこそ思ひ（たてまつる）」と言ふ。翁、「うれしくものたまふ(6)物かな」と言ふ。「翁、年七十にあまりぬ。(b)今日とも明日とも知らず。この世の人は、おとこは女に婚ふことをす、女は男に婚ふ事をす。そののちなむ、[注8]門ひろくもなり侍る。いかでか、さることなくてはおはせん」かぐや姫のいはく、「なむでう、(7)さることかし侍らん」と言へば、「変化の人といふとも、女の身持ち給へり。(8)翁のあらむかぎりは、かうてもいますかりなむかし。この人々の、年月をへて、(9)かうのみいましつつのたまふことを、思ひさだめて、[注9]一人一人に婚ひたてまつり給ひね」と言へば、かぐや姫いはく、「よくもあらぬかたちを、Ⓔ深き心も知らで、あだ心つきなば、(c)後くやしき事もあるべきをと、(d)思ふばかりなり。世のかしこき人なりとも、深き心ざしを知らでは、婚ひがたしと思ふ」と言ふ。

（『竹取物語』新日本古典文学大系17による）

注1　わび歌　　思いの苦しさを訴える歌
注2　降りこほり　　雪が降り氷がはるときにも
注3　照りはたたくにも　　太陽が照りつけ雷が鳴りひらめくにも
注4　願を立つ　　ここでは、この恋を止めたまえと神に祈ること
注5　翁　　竹取の翁
注6　我子の仏　　「仏」は大切にかしづく人への親愛を込めた呼び方
注7　変化の人　　神仏などが人の姿になったもの
注8　門ひろくもなり侍る　　一門一族が繁栄するようにもなります
注9　一人一人に　　五人の求婚者の中のどなたか一人に

問一　傍線部Ⓐ「霜月」、Ⓑ「師走」、Ⓒ「水無月」は、それぞれ陰暦の何月かを答えなさい。

問二　傍線部Ⓓ「をろかならず」、Ⓔ「かたち」、Ⓕ「あだ心」の本文中の意味を答えなさい。

問三　傍線部(1)「娘を、吾に賜べ」を現代語訳しなさい。

問四　傍線部(3)「頼みをかけたり」、(4)「やしなひたてまつる」、(6)「のたまふ」の主語を次の中から選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア　この人々　　イ　かぐや姫　　ウ　翁　　エ　変化の人

問五　傍線部(2)(5)について、(　　)の語を、係助詞の結びに合うように活用させて答えなさい。

問六　傍線部(7)「さること」が、指し示す内容を文中より抜き出し、五字で答えなさい。

問七　傍線部(a)「ぬ」、(b)「ぬ」、(c)「ね」、(d)「な」のうち、一つだけ異なる助動詞があります。記号で答えなさい。

問八　傍線部(8)「翁のあらむかぎりは、かうてもいますかりなむかし」の現代語訳として最も適当なものを、次の①～⑤から一つ選んで答えなさい。

① 私が生きている間は、あなたはこのまま独身でもいらっしゃることはできるでしょうよ。

② 私がこの屋敷に住んでいるうちは、あなたをかくまっていても許されることでしょうが。

③ 私の命が尽きてしまったならば、求婚者たちはあなたに強引に結婚を迫ってきましょうよ。

④ 私があらん限りの権力をふるい、あなたを求婚者たちから守り通してお見せしますよ。

⑤ 私が生きているうちは、あなたには誰とも結婚しないでいらっしゃってほしいのですよ。

問九　傍線部(9)の「かう」に該当する「この人々」の行動を示す一文を文中から十五字以内で抜き出して答えなさい。なお、句読点や符号も文字数に含むものとします。

受験番号

問題訂正

「国語」　問題冊子１１ページ問九の問題文

（誤）　なお、句読点や符号も文字数に含むものとします。

↓

（正）　なお、句読点や符号は文字数に含まないものとします。